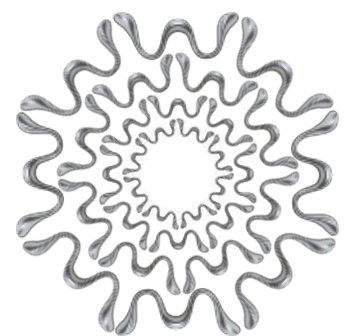
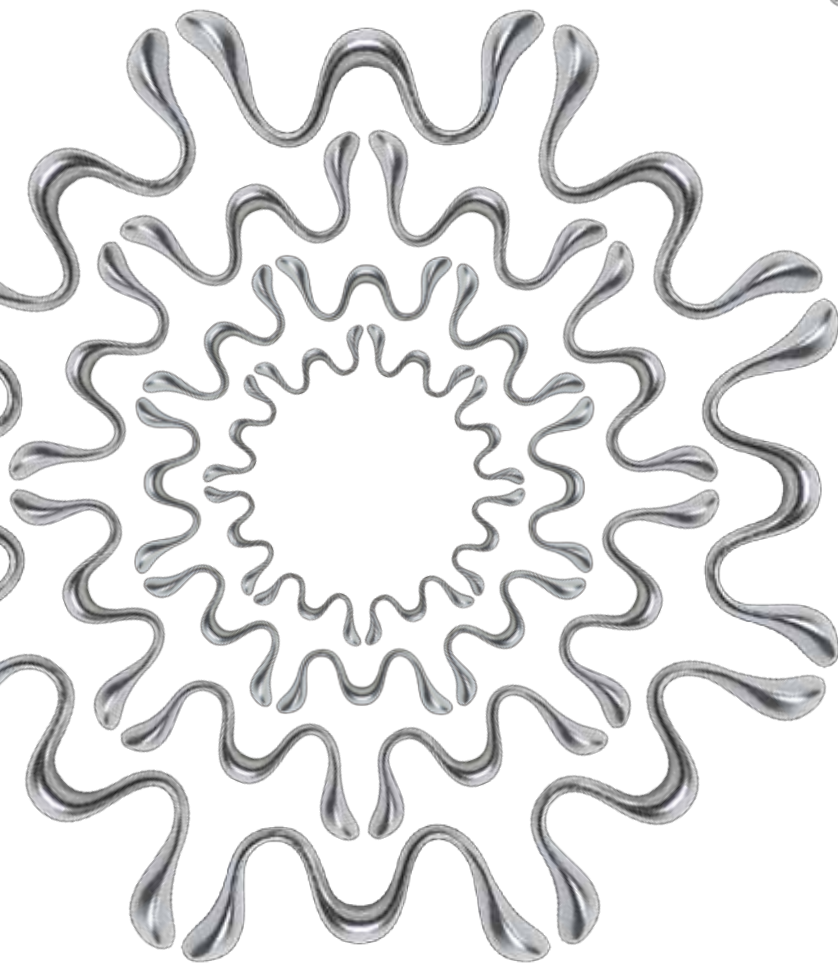
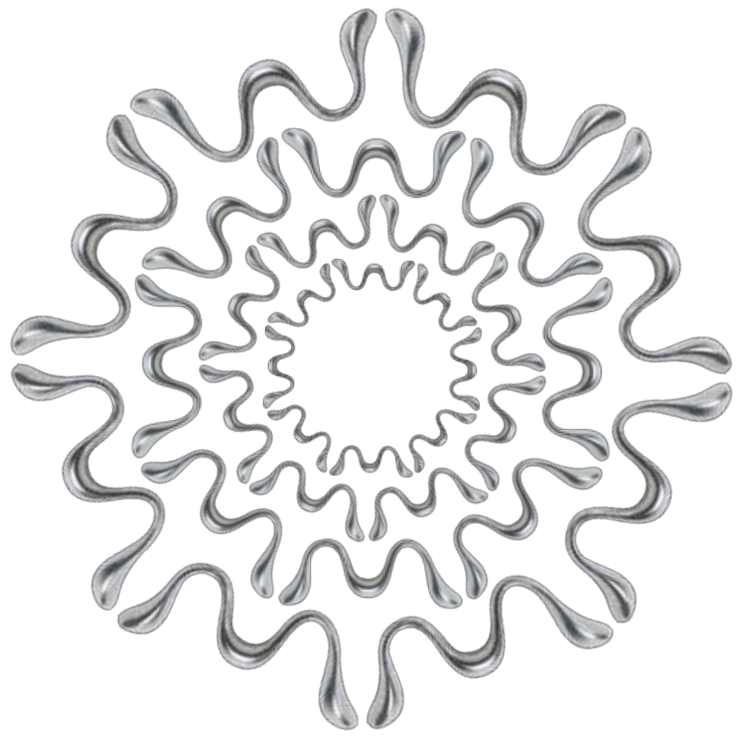


toyama design wave

富山で生まれる、次のデザイン。



2014



toyama design wave 2014

富山から世界へ発信する
デザインムーブメント

近年、価値観やライフスタイルが多様化し、ものづくりには機能性やコストに加えて、生活に潤いやゆめもりを与える優れたデザインがますます重要になってきております。富山県では産業分野での活力となるよう、デザインの振興とその活用にあらかじめ着目し、さまざまな事業を積極的に進めてまいりました。

なかでも、このデザインウエーブ事業は、「富山から世界へ発信するデザインムーブメント」として1990年に開始し、今年で25回目を迎えました。この間、優秀な作品の商品化を

支援する「富山プロダクトデザインコンペティション」を核とし、ワークショップ、展示会など、多彩な企画を実施しております。また、2009年には産業活性化を目的としたデザインイベントとしてグッドデザイン賞を受賞するなど、全国的にも高い評価を得ております。

今回のデザインウエーブは、2015年3月の新幹線開業を見据え、「移動とデザイン」をコンセプトとし、「新幹線と旅」をテーマに「富山プロダクトデザインコンペティション」の作品募集をしたところ174点の応募をいただきました。この他

にも、「富山県と旅とデザイン」をテーマに、デザインフォーラムを開催するなど、多彩な企画を実施しました。

このデザインウエーブが、これからの富山県におけるデザイン振興の新たな方向性を見いだす参考になるとともに、デザインが広く人々の生活に潤いをもたらす、県内産業の振興に大きく貢献することを心から期待しております。

富山県知事 石井 隆一

CONTENTS

- 04 デザインコンペティション
富山プロダクトデザイン
コンペティション2014
- 14 デザインフォーラム
対談「富山県と旅とデザイン」
講師 水戸岡鋭治×ナガオカケンメイ
基調講演
「地域デザイン
富山らしさを再発見する!」
講師 ナガオカケンメイ
- 18 ワークショップ
富山マテリアルワークショップ
- 22 企画展
北陸新幹線がつなぐ地域の未来
- 26 展示会
デザインウエーブ
富山デザインウエーブ2014展
富山デザインフェア2014
第54回富山県デザイン展
工芸都市高岡2014クラフト展
高岡クラフト市場街〜いちばまち〜 2014

※敬称略

toyama design wave
富山デザインウエーブ

デザイナーと県内企業の
マッチングを行う

商品化の機会を提供する

これからのデザインを探求する

シンボルマークは3つの使命を象徴としたデザインです。ロゴタイプは小文字表記とし、人と人とのつながりを生み出す事をイメージさせるやさしい印象にしています。また、事業概念をマークに盛り込み、「富山で生まれる、次のデザイン。」を生み出す事業として進化し続ける事を約束いたします。

Toyama Product Design Competition 2014

富山プロダクトデザインコンペティション2014

今年で21回目を迎える「富山プロダクトデザインコンペティション」。今年のテーマは「新幹線と旅」。数多くの応募作品の中から、2次審査に残った11作品と審査の様相を紹介します。

テーマ「新幹線と旅」

2015年春、北陸新幹線が開業します。移動時間が大幅に短縮されるのはもちろん、太平洋側と日本海側を結ぶ、行動圏の広い新しい旅に大きな期待を寄せています。「人・もの・時間・場所」の関係から「旅」を考えると、観光や出張、帰省などシーンは多種多様。新幹線開業の年に向けてビジネスチャンスが広がる今、「旅」にまつわるプロダクトを募集しました。

富山デザインウエーブ事業の柱となる「富山プロダクトデザインコンペティション」は、全国で初めて開催した商品化を目的とするコンペティションです。デザイナーと企業、富山県総合デザインセンターが協同によって入賞作品の多くを商品化し、これまでに数々のヒット商品を生み出してきました。この実績から、当コンペへの注目は年ごとに高まり、現在では若手デザイナーの登竜門としての地位を確立しています。また、当コンペを通して多くの企業とデザイナーとの間には長期的に、共に歩むための関係が生まれています。

SCHEDULE

6月1日～7月31日

応募登録、作品受付(応募総数174点)

8月7日

1次審査 応募された作品シートの中から、1次審査通過作品11点を決定。審査結果は8月8日にウェブサイトで発表しました。1次審査通過者には、2次審査で提出してもらう模型の製作支援として5万円を補助。



10月1日

2次審査・授賞式 模型を使ったデザイナーによるプレゼンテーションの後、各賞を決定。同日に授賞式および、審査員、企業との意見交換会を開催。



[2次審査] 応募総数174点の作品から1次審査を通過した11点による2次審査では、11組のデザイナーが2次審査に向けて製作した模型を使い、プレゼンテーションを行いました。コンセプトの伝わりやすさ、アイデアの実現性、商品としての完成度など、質疑応答ではさまざまな角度からの質問や意見が審査員からデザイナーに投げかけられました。また、審査員による審議は公開で行われ、各賞決定までの過程を多くの来場者が見守りました。



[授賞式] 2次審査で選ばれた3組のデザイナーに「とやまデザイン賞」「準とやまデザイン賞」「黒木靖夫特別賞」が贈られました。

10月2日～6日

展示会 富山デザインウエーブ展示会にて、1次審査を通過した11作品を展示紹介。

10月2日～

商品化支援 商品化に向けて企業とのコラボレーションや販路開拓を支援。



[交流会] 「富山プロダクトデザインコンペティション」に参加したデザイナーと審査員、企業のトップや商品開発担当者が親交を深めました。

[審査評価基準]

- ☑ 独創性 斬新で、デザイナーの個性が反映されたものであるか。
- ☑ 市場ニーズ 今の時代に適合し、市場が求めているものであるか。
- ☑ 美的価値 造形として美しいものであるか。
- ☑ 商品化の可能性 製造方法が現実的なものであるか。

[審査員]

- 澄川 伸一 プロダクトデザイナー
- 橋田 規子 芝浦工業大学教授/プロダクトデザイナー
- 廣田 尚子 女子美術大学教授/プロダクトデザイナー
- 大矢 寿雄 富山県総合デザインセンター所長

準とやまデザイン賞

富山飴

旅先での移動時間、飴でも食べる?と鞆から飴を取り出す場面をよく見かけます。そしてさらに、ガイドブックを見ながら、次はどこへ行こうか、何を食べようかとページをめくりまします。この富山飴は、その二つを組み合わせた「食べるガイドブック」です。旅先でもスマートフォン一つで何でも調べることができる時代ですが、個包装に書かれた富山のちょっとした情報が、富山を知るきっかけになればとデザインしました。また、旅先で食べるだけでなく、お土産としてもらった人が、富山に興味を持ち、旅に出たくなる。旅が繋がっていいなと思います。カラフルで見ている楽しい旅のお供が、あなたの旅路をより一層楽しくさせることでしょう。



嶋津 有香

1993年滋賀県生まれ。滋賀県立大学人間文化学部生活デザイン学科在籍。

黒木靖夫特別賞

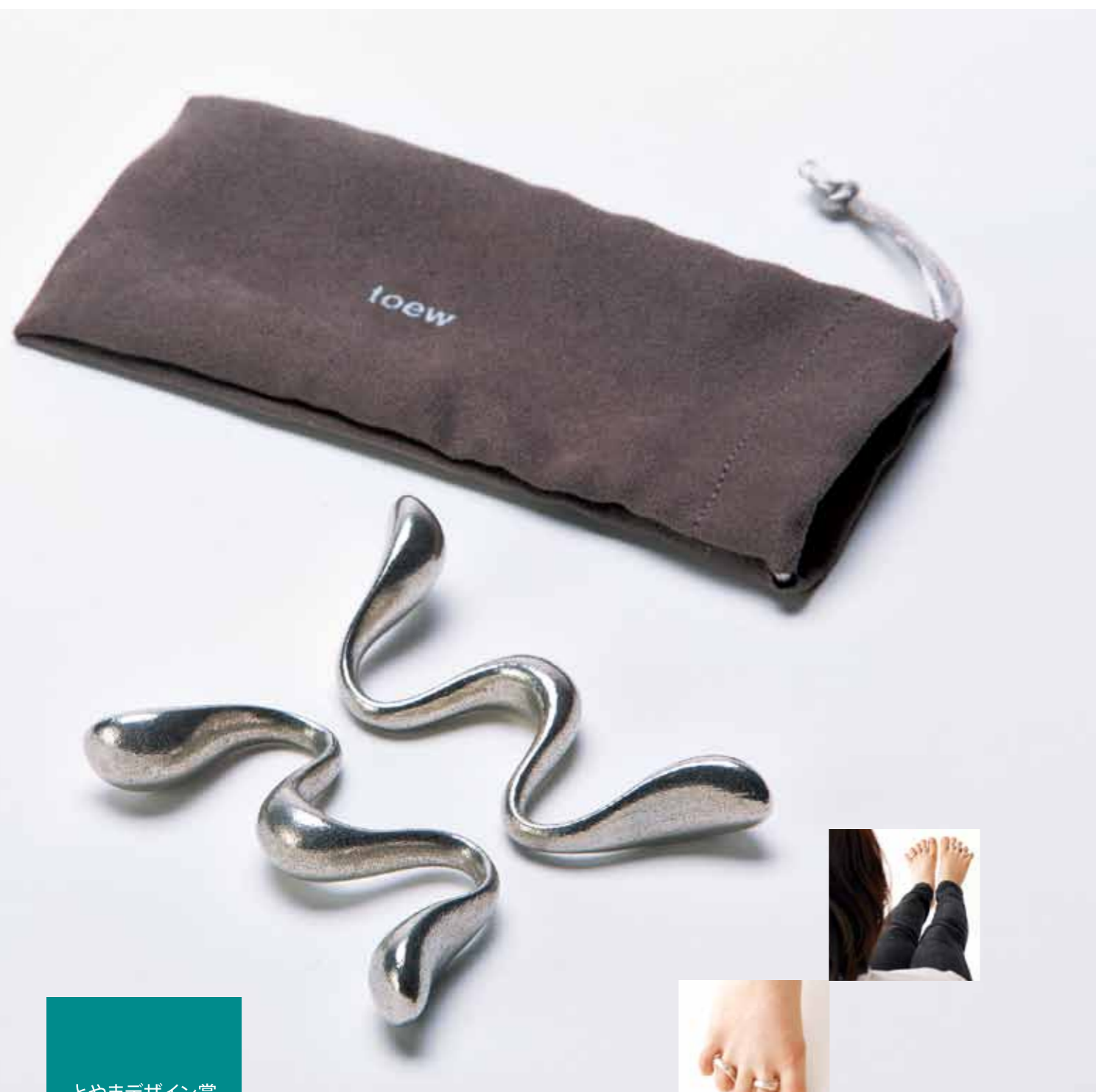
1456 plate

北陸新幹線には従来のサービスの枠を超えたグランクラスがあり、茶菓が“パック”で提供されます。旅客機のファーストクラスのように簡単な茶菓であっても、きちんとした器でもてなすことで旅のおもてなし向上と、伝統と先進の産業技術の発信につながると考えます。そのための器を新幹線のノーズを成形する際に使われた打ち出し板金技法で作りました。また、お土産としてその器を購入できるのもいいなと考えました。その時、旅先で訪れた海岸や河原で石ころを拾い持ち帰った記憶とお土産として持ち帰りたくなる形が重なりました。家庭では大らかで不揃いな形を生かし、盛り付けが楽しくなるサービングセットとして使えます。テーブルウェアと新幹線、一見関係のないものが富山の産業技術によって結びつきました。



小山 崇

1984年埼玉県生まれ。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業。インハウスデザイナーとして仕事をしながら活動中。



とやまデザイン賞

toew

「旅」と「足」はとても密接に関係していると考えました。旅の際、たくさん歩いたり、お気に入りの靴を履き続けることはよくあると思います。そんなときに心地良く、旅の仲間にもみられても美しい、足をいたわるものがあれば、旅が少し豊かになるかもしれません。トーセパレーターは足の柔軟性を高め、疲れをとる効果があります。また錫でできた「toew」は程よく曲がり、金属アレルギーになりにくい性質から身体に心地良くフィットします。お風呂上がりを使うとひんやり冷たいのもうれしいところです。



yonanp(ヨナンペ)

共に金沢美術工芸大学を卒業後、2013年より活動を開始。家電メーカーのデザイナーとしての勤務を続けながらYonanpとして活動を行う。

1次審査
通過作品

1 air tabi

乗り物での長距離移動の際に履く足袋です。タイベックでできているため、丈夫で耐水性がある軽い素材!簡単に収納でき、履いている感覚がないような足袋。今までの乗り物での履物は、パンプスなどゴムで軽くとめていたり、スリッパは足先に引っ掛ける意識が必要でした。また、嵩張るものでした。そこで昔からある足袋に注目し、その構造を元にReデザインしました。足袋は締めつけることなく足を布で覆うので安心感もあり、座席で靴を脱いだとしてもエチケットになります。とても歩きやすく軽い履物になっています。また、収納性も考慮しました。



河本匠真

1987年Boston,MA生まれ。2010年から東京芸術大学在籍。安宅賞やグッドデザイン賞を受賞。

2 光陰

「光陰」は、ウイスキー等のアルコールを携帯するための高級スキットルです。スキットルの形状はヒップスタイルで様式化されています。スキットルの特徴である断面形状を踏襲しながら、キャップ部分をボディと高次曲面表現で滑らかに接続し、柔らかな温もりのある大きな曲面で、特徴ある佇まいを持つものに仕上げました。パリエーションとして多数の曲面で構成された冬山を連想させる形状を持つものもあり、前者は、ゆるやかな時の流れを、後者は、季節の移り変わりを表現しています。



中島淳雄

電気通信大学材料科学課卒業。2008年(株)グリフォンデザインシステムズ設立・代表取締役。日本デザイン学会会員、日本建築学会会員。

3 くものまくら

「くものまくら」は新幹線の中で眠るときに使う極小のまくら。新幹線の中では雑誌を読んだり、旅の予定を立てるのも楽しい。ただちょっとだけ眠りたいとき、まくらを窓に貼り付けるだけで頭を預けることができます。携帯ピローのように空気を入れたり抜いたりする必要もなく、より気軽に旅先へと持ち出すことができます。車窓に貼ったまくらは、北陸の風景に流れる雲のようでもあります。



ポポファミリー 中山雄介・村井陽平

金沢美術工芸大学の同級生によるユニット。中山雄介/京都府出身。家電メーカーに勤務。村井陽平/富山県出身。英ロイヤルカレッジオブアートに留学中。

4 TABI-SAKE

新幹線の旅とは移動も楽しむものです。「TABI-SAKE」はその移動時間を彩る為の“自分へのお土産”です。子供の頃、新幹線の中でしか飲めなかったポリ容器のお茶は旅の特別感や家族旅行のシンボルでした。そのお茶の容器から発想し、当時子供だった僕たちがもう一度あの特別感を味わえるような徳利と御猪口をリデザインしました。お酒の入った徳利はペットボトルに蒸着仕上げを行い、見た目が華やかなだけでなく、軽くて扱いやすくなりました。御猪口は本錫を用いて雑味のないお酒を楽しんでもらうだけでなく、旅のお土産として自宅でも使えるものになりました。錫は外観のためだけでなく、その浄化作用でいつものお酒をちょっと特別なものしてくれます。



不破健男

早稲田大学法学部、千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻卒業。プロダクトデザイナーとして家電メーカーに勤務。



1



2



3



4



5



6



7



8

5 モメントハンカチーフ

旅の途中で見かけた、新幹線が通る一瞬(モメント)の景色を切り取ったようなハンカチ。エンブローダリーレースマシンにより一定ピッチごとに連続的に施されるレース柄で“新幹線の動き”を表現しました。レースは、古くから「繊細さ」「上品さ」などのイメージを持つことから、装飾的な要素を持つ素材ですが、現代のライフスタイルにおいては、シンプルでカジュアルなアイテムとしてより幅広い年齢層に身近に感じてほしいと思い今回の提案に至りました。北陸新幹線開通に伴い、「出会い」や「別れ」の機会が増えることから、会いに来てくれた家族や友人にお礼に渡せる贈り物であったり、また別れを惜しむ時に涙をぬぐうものであったり、昔から変わらない“旅”にまつわるさまざまなシーンで、若い方から年配の方まで使えるアイテムとしました。新幹線の窓に映りこむ景色から、「どこかの景色だろう」と想いを馳せながら使ってもらえたらうれしいです。



STUDIO BYCOLOR 秋山かおり

千葉大学工学部デザイン工学科卒業。2013年STUDIO SAMIRA BOON@オランダアムステルダム、同年STUDIO BYCOLOR設立。グッドデザイン賞など受賞。

6 Rabbit hook

新幹線などで洋服を掛けるフックが細く小さくて、服の襟元が痛みそうに感じたことはありませんか?お土産をたくさん買って紙袋などが重くなり、手が痛くなったことはありませんか?そんなときに活躍してくれるのが、この「Rabbit hook」です。



Design Ship TORA 藤澤祐里佳・嶋川萌・中嶋尚孝

藤澤祐里佳/福岡県生まれ。福岡デザイン専門学校総合デザイン科3年在籍。

7 糸氏代衣 (いとしよりのころも)

お土産屋さんなどで、よく見かける紙袋。角を折ってみると、意外なことが。強度が増して丈夫になったり、角をぶつけにくくなったり、可愛くなったり、ハンガーになったり……。



Design Ship TORA 嶋川萌・藤澤祐里佳・中嶋尚孝

嶋川萌/大分県生まれ。福岡デザイン専門学校総合デザイン科3年在籍。

8 KUSAMAKURA 一草枕

その昔、旅人たちは道端の草を束ね、それを枕にして眠ることで旅の疲れを癒したそうです。この枕のことを「草枕」と言います。「草枕」は、日本の美しい文化である和歌にも「旅」を表す「枕詞」として残されています。つまり文学の世界において「草枕」とは『旅』そのものを意味しています。私たちが提案するのは、この「草枕」という言葉から着想したブックカバーです。ガイドブックや小説など、たくさんの『旅』の情報が詰まった『本』たちは、旅する私たちの最高のパートナーと言えるのではないのでしょうか。しかし、旅の道程で本に没頭しているといつの間にか夢見心地なんてこともしばしば。そんなとき手元の本がそのまま枕になったとしたら素敵な夢が見られるかもしれません。



ヨシダトモフミ+アオキケン 吉田朋史・青木健

吉田朋史/福島県生まれ。東北大学大学院工学研究科都市建築学専攻建築デザイン(五十嵐太郎)研究室修了。建築家。青木健/滋賀県生まれ。横浜国立大学工学部建設学科建築学コース卒業。同大学院修了。建築家。

コンペを振り返って

テーマの選定から一般公開の2次審査までを担った4名の審査員にコンペティションを振り返り、今年の応募作品や審査について、今後の富山プロダクトデザインコンペティションに期待することなどを伺いました。



澄川 伸一
プロダクトデザイナー

女性デザイナー躍進の予感

「新幹線と旅」ということで、非常にワクワクするテーマの反面、難易度は高い。しかし、非常にレベルの高いデザインとプレゼンテーションが凝縮された、とてもいい2次審査となりました。正直、審査が終わって、本当にくたくたでした。それだけ、思考力を消耗する審査だったということです。

最終選考に残ったのは、女子学生が3名とインハウスデザイナーたち。かつて、一番元気だった男性フリーランスの影は極めて薄い。時代は確実に変わっています。5年後のプロダクトを女性が席巻するのは、ほぼ間違いのないでしょう。これはこれでいいことだと思います。個人的には、若い男性で、もっと過激な発想をするデザイナーの登場を期待したいところですが(笑)

残念なのは、1次審査の段階から作品がブラッシュアップされるのではなく、逆におとなしくまとまってしまうたり、モデルの完成度が低く、足を引っ張っている場合が多かったこと。1次で評価された部分の何かを良く考えないといけません。逆に言えば、応募の時点から、生産性、流通性など基本的な部分はきちんと裏付けをとっておくべきだと感じます。

結果的に、今年の「とやまデザイン賞」になった「toew」は、そうした問題点を全てクリアにしていた作品で、2次審査のモデルがもう販売可能な状態にまで完成されていたのです。「曲がる」「抗菌」という錫の特性が、人それぞれ大きさとカタチの異なる足の指にフィットするというコンセプトにぴったりとマッチしました。非の打ちどころがない。多少、小さくまとまりすぎている点を除いて(笑)「旅」というテーマ以上に、毎日の疲労回復の道具としての商品化が期待できます。

皆さま、お疲れ様でした。

プロフィール

1962年東京都生まれ。84年千葉大学工学部卒業後、ソニー(株)入社、その後4年間のソニーアメリカデザインセンターを経て、92年に澄川伸一デザイン事務所設立。世界57カ国の滞在経験を生かした、常識にとらわれないデザインを実践。家電、浴槽、医療、クラフトまで幅広くデザインを展開。3次元CADを駆使した人間工学的な曲面設計が得意。講演、TV出演など多数あり、Gマーク審査員ユニット長を歴任。TOEIC725。大阪芸術大学客員教授。ドイツレッドドット賞(2012)受賞。グッドデザイン賞、デザインコンペなど多数受賞。



橋田 規子
芝浦工業大学教授/プロダクトデザイナー

新しい要素を取り入れ、さらなる広がりを

「新幹線と旅」という今年のテーマは、具体的なので、精度のある作品が集まるのではないかと、期待していました。結果、実際に良い作品が集まったと思います。今回のコンペでは課題の出し方の重要性を改めて考えさせられました。

2次審査に残った作品は、それぞれコンセプトがしっかりしていて、商品だったら買いたいと思うものばかりでした。「とやまデザイン賞」の「toew」は錫でできた、足指のリフレッシュアイテム。薄い所が曲げられ、個人の足の形に合わせることができます。富山の産業素材と「旅」をうまくからめ、形状も美しく、オリジナリティーがあるという点で大賞に相応しいデザインでした。「準とやまデザイン賞」の「富山飴」は、飴の袋に富山めぐりのポイントが書かれたもので、スマホ時代ならではの情報提供として面白い提案です。情報過多の昨今では、如何に情報を自然に取りに行かせるかが重要です。「黒木靖夫特別賞」の「1456 Plate」は新幹線のポディーを打ち出す板金技法で作った皿で客をもてなすというコンセプト。ストーリー性もあり納得いくものでした。2次審査に残った他の作品も良い出来で、サイズ感や売り方を一工夫すれば素晴らしいアイテムになるでしょう。

富山プロダクトデザインコンペはさらに新しいステップへ進んでいってほしいと思います。例えば、通電して使うものなど。光や熱などの要素を入れていけば、より広がりがあるアイデアが生まれるし、より広いジャンルの人々からの応募が期待できるのではないのでしょうか。今後もこのコンペによって、富山の取り組みが広く知られて産業の活性化に繋がっていくことを期待したいと思います。

プロフィール

東京芸術大学デザイン科インダストリアルデザイン専攻卒業後、TOTO(株)を経て2008年NORIKO HASHIDA DESIGN設立。09年芝浦工業大学デザイン工学部教授就任。心と体に心地よい製品の、要素研究とデザイン開発を行う。近年はオフィス家具「White Line シリーズ」岡村製作所、生活用品では「KIFUKU」タカタレムノス、「Retto シリーズ」岩谷マテリアルなどの製品化。また、PAGESシリーズなどオリジナル家具の製作も手がける。直近ではNYと日本において日本の入浴文化研究とデザインの展覧会「Japanese Bathroom Culture」を開催。グッドデザイン賞多数受賞。



廣田 尚子
女子美術大学教授/プロダクトデザイナー

切り口の多様さに審査の軸が増える

新幹線が開通するという大きな話題で活気づく富山を盛り上げたい思いで、初めて審査員がコンペのテーマに参画したこともあり、今年はどうのような応募があるのか、思い入れを大きくして審査に臨みました。

結果は新幹線独自の旅にフォーカスを当てた新しい「用途」や「ストーリー」に立脚した提案が多数あり、2次審査では1つに絞る苦労を久しぶりに味わいました。また、提案の方向性に幅があった点も今年の特徴でした。キャンディ=食品、ハンカチ=服飾雑貨、紙袋=販売者不特定の包装用品などは、これまでのコンペのイメージを新しくする意欲を感じる切り口として印象的でした。最終に残るデザイナーのジャンルがグラフィックや建築など多様になったということかもしれません。

多様で良いデザインが集まったことで、審査サイドとしては審査の軸も増えて、結果を出すまでに長い時間を要した感があります。審査では、デザインの良さだけでなく販売される売り場の状況や流通過程を推測し、「誰がどうやって売れるのか」「商品としての新規性」「商品化した時の成長性(あるいは流通時などのトラブル)」「ユーザーにとっての真のバリュー」「富山が発信するメッセージの新規性」にも注視しました。商品化でのお目見えを楽しみにしています。

プロフィール

プロダクトデザイナー。ヒロタデザインスタジオ代表。女子美術大学教授。東京生まれ、1990年東京芸術大学卒業。GKプランニング&デザインを経て、97年ヒロタデザインスタジオ設立。98~2000年オリジナルブランドをブルミエールクラス(パリ)で発表。ブランドの立ち上げからデザイン、生産、プロモーション、販売、流通、製品ビジネスに関わる。ソリューションをトータルにプロデュース。国際バッグデザイン豊岡 金賞(1994)、The I.D. Annual Design Review 入選(USA)(1998)、デザインフォーラム 金賞(1999)、ドイツレッドドット賞(2014)など受賞。



大矢 寿雄
富山県総合デザインセンター所長

レベルの高い作品に商品化の期待が高まる

2015年春に北陸新幹線開通を迎えるにあたり、今回はテーマを決める段階から審査員の皆さんと協議をして「新幹線と旅」としました。今年では従来に比べてやや応募数が減った感がありますが、その反面、全体的に作品のレベルは大変高く感じられ、優劣をつけるのに非常に苦労しました。

その中で最後まで審査の議論を交して今回「とやまデザイン賞」を受賞したyonanp(ヨナンペ)の作品「toew」は旅と癒しを切り口にしたトーセパレーターとして、富山の錫という素材を生かし機能的にも優れ、造形的にも美しくまとまったプロダクトデザインの作品です。「準とやまデザイン賞」の嶋津有香さんの作品「富山飴」は、富山の素材を生かした飴と旅のガイドをコラボした大変ユニークな作品で、ストーリー性のあるパッケージデザインはカラフルで旅の楽しみを一層膨らませる作品となっています。「黒木靖夫特別賞」に選ばれた小山崇さんの「1456 Plate」は、新幹線ノーズ成形の打ち出し板金技法を切り口にした器で、富山の素材を生かしたおもてなしの作品として評価できます。ただ、無理に新幹線グランクラスを意識せず、またもっとコンパクトなサイズの方が使い勝手が良かったとも思われます。

最後に、今回、その他の作品の中からも富山県の「旅のおもてなしの品」として商品化ができれば幸いです。

プロフィール

1968年東京芸術大学卒業。同年ソニー(株)入社デザイン室配属。70年ソニーアメリカ(ニューヨーク)赴任。74年ソニー本社デザイン室へ帰任。主にテレビ・ビデオ・開発デザインを担当。86年宣伝制作部長として宣伝を担当。90年デザイン部門に戻る。91年コーポレートデザインセンター長就任。ソニー全商品のデザインマネージメントを統括。97年3月ソニー(株)退社。同年10月NEC(株)入社コーポレートデザイン部長就任。2000年(株)NECデザイン代表取締役社長就任。07年より顧問。03年より東京芸術大学非常勤講師。08年より富山県総合デザインセンター所長に就任。現在に至る。

パネルディスカッション

質の高い応募作品から見てきた本コンペのあり方

審査員がテーマの設定から関わった今年のコンペティション。4名の審査員によって厳正な審査が行われ、公開で行われる2次審査では作品の選定にとどまらず、コンペティションのあり方を考える場となりました。

審査員 澄川 伸一、橋田 規子、廣田 尚子、大矢 寿雄

モデレーター 桐山登士樹 富山県総合デザインセンター デザインディレクター

夢とストーリーのある 質の高い応募作品

大矢 コンペでは、テーマを設けると応募作品数が減る傾向があります。テーマを設けなかった開催年と比べて今年は応募数が少なかったようですが、「新幹線と旅」とテーマが具体的だったことで、よりリアルな展開を示す作品が多かったと思います。

橋田 質の高い作品が多かったですね。テーマが良かったのだと思います。「toew」は身体性を考慮したデザインで説得力がありますし、「富山飴」は今の時代に人々がどのように情報を得て旅行をするかといったストーリーがありました。

廣田 確かに商品化できる作品が多く、フォームからも完成度の高さが伝わってきますね。デザインは夢を与えるものです。今回のクオリティの高さを支えているのは、夢のある提案だったということではないでしょうか。しかし、一方で、企画力の弱さが目立ちました。その点で、「1456Plate」は新幹線そのものにフォーカスした企画力のある作品です。

澄川 コンペにおいては、地域性や時代性のある作品に賞を贈りたい。ですから「富山飴」はグラフィックの秀逸さだけではなく、「この飴を手にした人たちの間で、“富山”を話題に会話が始まる」そんなストーリーがイメージできるという点で優れていました。

コンペのあり方を振り返り さらにバージョンアップを

廣田 本コンペではメッセージとしての「富山らしさ」がどうしても必要とされますが、応募作品には、この1点は欠けているけれど、すぐに商品化できる作品がいくつもありました。

澄川 今回は特にそうでしたね。ぜひ商品化してほしい作品が



ありました。「糸氏代衣(いとしよりのころも)」は、すでに実用新案の出願がなされていたという点で賞から外れてしまいましたが、付加価値をプラスすれば十分に商品化できるものだと思います。デザインを考える時に、「誰かが同じようなアイデアをすでに考えていないか」と恐怖心を持つこともデザイナーには必要です。今回のことは、参加した皆さんにとって良い経験になったのではないのでしょうか。

橋田 「糸氏代衣」はデザイン面が際立っていましたが、アイデアがすでに出願されているものと類似していたため受賞となりませんでした。しかし、紙袋の新しい価値を生み出し、世界で展開できる可能性のある作品だったので、このような作品に賞を贈る年があってもいいのではという流れが生まれました。

廣田 審査にはいくつかの基準がありますが、今回は2次審査の段階で、その基準が大きく変わりました。審査基準はコンペの性質を表すものですから、本コンペの位置づけを考え、あり方を振り返るきっかけになったのではないのでしょうか。

大矢 本コンペは今年で21回目を迎え、年々、成熟してきていると感じます。この2次審査を機会に、もう一段バージョンアップさせていきたいですね。

デザインウエーブから生まれた商品

富山デザインウエーブ事業を通して、これまでに約40点の作品が商品化され、数多くのヒット商品が生まれています。現在開発中の作品も含め、新しく商品化された作品を紹介します。

※価格は税抜です。



富山マテリアルワークショップ2013提案作品 「チューブ」

チューブをモチーフにした、錫と真鍮の素材感が美しいフラワーベース。

[商品化の秘訣] 花器本体が、錫部分と真鍮部分の2種類のパーツに分かれているので、その境界から水漏れが起きないように接合方法を考案。錫部分が厚すぎるとスタイリッシュに見えないが、薄すぎると強度に問題が出るため、仕上げがよりデザイナーのイメージに近くなるよう調整に苦労しました。

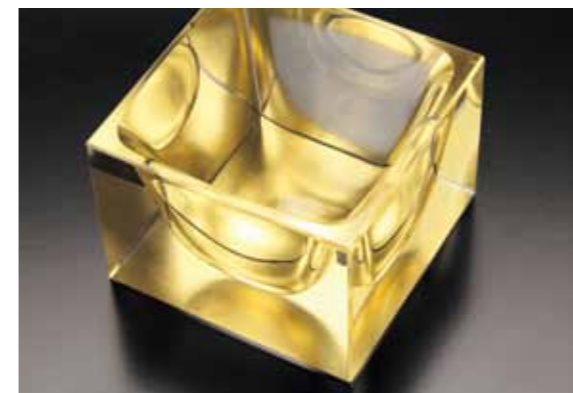
デザイナー/福嶋賢二 製造・販売/(株)能作(富山県高岡市)
価格/L 6,000円、S 5,000円

富山マテリアルワークショップ2013提案作品 「Bloom」 100個限定発売を予定

吹きガラスと幾何学模様の糸、異素材が引き立てあうテーブルウェア。

[商品化の秘訣] ガラスと繊維の異なるイメージがバランス良く互いを引き立てあう作品。商品化にあたり形状を3種類に限定しましたが、ディテールの制限は厳しくせず、ガラス作家の手と息で形づくられる緊張感を重視しました。作品性の高い商品として、底面に作家名をインシヤルで刻み、100個の限定品として販売。

デザイナー/村越 淳 製造/富山ガラス工房(佐々木俊仁、光井威善、廣瀬 絵美)、販売/伊勢丹新宿店(2015年3月より) 価格/12~14万円台(予定)
※100点限定生産、シリアルナンバーあり



富山プロダクトデザインコンペティション2013 「とやまデザイン賞」受賞作品

「MASU」 500個限定発売を予定

祝杯として使われる「升」の神聖な美しさを底面の加工で引き立てた酒器。

[商品化の秘訣] 器を軽量化し片手で持ちやすくするため、サイズを1合から1/3合(60ml)に変更。底面処理は、無地のクリアタイプと、海外への展開を考慮し日本の伝統的な手法を取り込んだ金箔や漆のタイプの商品化を検討し、500個限定発売を予定。

デザイナー/中村洋介 製造/木本硝子(株)(東京都台東区)
価格/クリアタイプ5,000~6,000円(予定)、金箔・漆タイプ12,000円(予定)

富山プロダクトデザインコンペティション2014 「とやまデザイン賞」受賞作品

「toew」 商品化に向けて開発中!

錫の特性「柔軟性」「抗菌性」を生かしたデザイン性の高いトースター。

[商品化の秘訣] 肌に触れるため仕上げの表面処理を特に吟味しました。当初のデザインよりも少し大きく緩やかな凹凸にして、肌当たりはもちろん、質感も向上させています。また、(株)能作では初の健康分野商品として、この商品の販売に合わせてブランドカラーの設定を検討しています。

デザイナー/yonanp 製造・販売/(株)能作(富山県高岡市) ※商品化予定
価格/未定



※開発中(写真は2015年2月時点のもの)



対談 >>>

富山県と旅とデザイン

車両デザインの世界を創造する水戸岡鋭治氏とデザイン活動家として日本中を飛び回るナガオカケンメイ氏。
お二人に富山県の魅力や観光、これからの町づくりについて、それぞれのデザイン論を交えながらお話をいただきました。

モデレーター 桐山登士樹 富山県総合デザインセンター デザインディレクター

個人の意識が変われば、 町も、日本も変わっていく

桐山 お二人は1年前にも対談されていますね。水戸岡さんはナガオカさんにどういった印象をお持ちですか。

水戸岡 ナガオカさんは地方を自分の足で回って、自分で見た人・事・ものを今様にデザインしている。例えるなら、千利休のような人。千利休も日本の素晴らしいものを五感で理解する、目利きでした。ナガオカさんもよいものを見つけて、解釈して、わかりやすく展示していますよね。

ナガオカ いえいえ、とんでもないですよ。

水戸岡 時代を捉えながら、地域の人の代わりにやるべきことをやっていると思います。でも、最後に町をつくっていくのは外から来た人ではなく、地元の人意識です。県、市、町は、そこに住んでいる人の意識レベルが表現されるもの。美しいと思わせる町は、美しいことをしたい人が住んでいるし、散らかっている町は、整理整頓ができない人が住んでいる。美しい町、楽しい町をつくるのは大変なこと。素晴らしい町があると、どうしてそうなったのか、どんな人が住んでいるのかを見に行きたくなるんです。イベントではなく、本質を見てもらうことが観光になる。それがナガオカさんの言っている観光です。

ナガオカ 私はデザイナーなので、いつか形をつくってみたいと思います。1年半ぐらい前に、初めてろくろを回して感動しました。それまで、自分の手から形をつくるのが怖かった。自分の才

能のある、なしはある程度の年齢になるとわかりますが、ないという判断で、形をつくるのが怖かったです。それで、私の役割は形をつくらぬデザイナー。すばらしいデザインを翻訳する、値段の意味を問うデザイン活動することにしました。水戸岡さんがつくる形、色のすばらしさに感動しながら、それを伝えるのもデザイナーの仕事だと広めていきたいです。

水戸岡 形や色を決める時、自信があるわけじゃないんですよ。ただ、いまだかつてないことをやろうとしている図面と、現状の中で利便性や効率性、経済性を追求した図面は全然違います。優秀な職人なら、その違いを理解してくれ、技と経験ですごいものをつくってくれます。何かが完成した時、建築家ですごい、デザイナーがすごいって言いますが、ものをつくる時には必ずすごい夢を描いている発注者がいます。その人の夢がどれだけ優れているかによって、人は動かされていきます。なので、個人の意識レベルが優れていて、その行動が国を動かしてくというのが理想です。デザイナーは縁の下の力持ち。人は皆デザイナーですから、それぞれがクリエイティブに発想すれば、国も町もデザインされていきます。

ナガオカ デザイナーって、自分のキャリアを見せて武装する職業だと思いますが、水戸岡さんはそれが無い。それを排除して、生活者や町に目をやり、本質を探ると水戸岡さんみたいなデザインができるんでしょうね。私が水戸岡さんの仕事で気に入っているのが、子どもに対するデザインです。必要以上に子どもに寄っていない、大人も子どもも楽しめるデザインって難しいんですが、そこをいつも表現されているんです。

水戸岡鋭治 ナガオカケンメイ

水戸岡 数年前、何のためにデザインしているのかを考えた時、次世代の子どものためにデザインしているんだと思いました。子どもは感性が鋭くて、物事を吸収する力が大人の何倍もあります。だから大人がこれまで培ったことを生かして全力でデザインを提供すれば、子どもはそれを享受し、大人になった時、私たち以上によいものをつくってくれるに違いありません。

移動の速さではなく、 車両で過ごす時間に価値を与える

桐山 新幹線はA地点からB地点へ早く到着できる乗り物です。旅は時間のデザインも大切ですが、それについて「ななつ星」の話を交えてお伺いできますか。

水戸岡 公共交通は速くなっていくことが正しいと思われていますが、早く行くのと遅く行くのは同じ価値があります。JR九州の「ななつ星」は本線から支線に入った途端、時速50キロぐらいにスピードを落とす。ゆっくり走ると景色がよく見えるし、手を振っている人にも気づきます。コミュニケーションができるんですね。そうすると移動ではなく、車両で過ごす時間が商品になってきます。戦後長い間、日本人は「贅沢な旅」というとヨーロッパに行くと豪華列車や船に乗り、向こうの文化に触れることだと思いついてきた。確かに勉強にはなりますが、高齢の層には、くたびれてしまう。車両内で日本食を食べて、日本の風景を眺め、サービスも日本人スタッフから受ける。そんな日本を再発見する

旅が潜在的にずっと求められていたはず。「ななつ星」がヒットしているのは、そのニーズに合ったからだだと思います。旅ということで、ナガオカさんに聞きたいのは、どれくらい時間をかけて日本中を回っていますか。

ナガオカ 年間220日、旅に出ています。移動は飛行機じゃなくて車を使います。この次は、長崎まで12時間かけて向かう予定です。

水戸岡 大変だね、普通はしないよね(笑)

ナガオカ 車で走っていると町の風景が見えたり、その土地の匂いがしたり。そういうことを感じられるのがいいんです。今行ったことがない場所でもフェイスブックで見て、なんとなく知った気になってしまう時代。でも、実際に見て感動しないとだめだと思うんです。間接的に知った情報がベースではなく、実際に行った、食べた、感動したってことを強みに勝負したいんです。観光情報誌「d design travel」も、情報満載で後は自分で選んでくださいという乱暴なやり方じゃなくて、私の好き嫌いで情報を選んでしまっている本があってもいいなと思って始めました。自分が行って感動したところだけを紹介しています。

水戸岡 ナガオカさんは吉田兼好の徒然草みたいに仕事と日記が一致していますね。ヨーロッパでは、子どもに旅をさせる時、日記をつけさせます。そうすると計画的な仕事や行動ができるようになるんです。旅も、人生も、計画性は大切です。きつとすばらしい旅をする人は、すばらしい人生を送るはず。ナガオカさんみたいに人生を割いてライブでいろんなことを経験し、感動したことが一番、自分に戻ってくると思いますよ。



水戸岡 鋭治 デザイナー

デザイナー、イラストレーター。1972年にドーンデザイン研究所を設立。建築、鉄道車両、グラフィック、プロダクトなどさまざまなジャンルのデザインを手掛ける。なかでもJR九州の九州駅舎・車両デザインではブルネル賞、ブルーリボン賞、日本鉄道賞、毎日デザイン賞、菊池寛賞、交通文化賞など受賞多数。



D&DEPARTMENT代表 ナガオカケンメイ

デザイン活動家・京都造形芸術大学教授・武蔵野美術大学客員教授。すでに世の中に生まれたロングライフデザインから、これからのデザインの在り方を探る活動のベースとして、47都道府県にデザインの道の駅「D&DEPARTMENT」を作り、地域と対話し、「らしさ」の整理、提案、運用を行っている。

富山県と旅とデザイン

富山でこそ育つものを見つけ、地域の皆さんと一緒に発展させていく

桐山 私たちは富山をデザインが生まれる場所にしたいと思っています。お二人は富山の可能性をどう見えていますか。

ナガオカ ぼくは今、静岡県に住んでいます。移住して植物を植えようとしたら、地元の方に「この土地に、その植物は育たないよ」と言われたんです。この話はいいい例で、富山に外から持ってきて植えても根が張らないものがあります。その土地で育たないものを持ち込んで、化学肥料を散布して無理やり育てても、肥料がなくなり、それを手掛けているプロデューサーがいなくなると途端に枯れてしまう。それでは意味がない。富山でしか育たないもの、しっかり根が張るものを育てるべきだと思っています。でも、外から来た私にはそれが何なのか分からない。皆さんと一緒にそれを見つけて、実がなるまで育て、それを他のものに変えていくのが私の仕事。その拠点となるのが、来年、富山にできる「D&DEPARTMENT」です。

水戸岡 富山は新幹線が開業すれば、新幹線で他県からやってきて、路面電車に乗って町中へ行くことができる、公共交通機関が最も進化した町です。そして、この町には0歳から高齢者まで幅広い年齢層の人が住んでいるわけですから、その全員が無理なく暮らせる、懐かしくて新しい町をつくらなきゃいけない。伝統は残し、最先端の価値を取り入れる町づくりですね。ナガオカさんが今日の基調講演（→詳細P17）で、60年代のデザインがす

ばらしいという話をしていますが、若者が骨董の価値をわかっている国ほどすばらしいと思います。ヨーロッパでは300年前の煉瓦の価値がわかる小学生や中学生がいっぱいいるんですよ。富山に話を戻すと、貯蓄率や持ち家率が高い豊かな町。これから観光にさらに力を入れていこうとする中で、何をすべきか。まず、自分の生活や仕事をする場がデザインされているかを見るべきです。個人の意識を変えないと町づくりはできない。それができたら、次にみんなでやるべき町づくりがあります。公園など美しくデザインされた公共空間は、その町の力といえます。ヨーロッパでは、「自分の税金が使われた公園は自分のもの」という感覚を個人が持っている。だから、ごみが落ちていけば拾うし、何か壊れていけば直す。そうすれば、町は美しくなっていく、人が集まり、豊かになっていきます。そういった根本的な意識を持たずに、とりあえずサイン看板を設置すると失敗します。個人の意識、社会の意識、人間社会と環境の意識、この3つの意識を変えて、初めて心地よい町はできます。富山でも皆さん個人の意識のレベルが変われば、ナガオカさんの店は盛り上がりしていく。皆さん、ぜひよろしく願います。

ナガオカ 今、商品選びをしています。ポイントは富山らしさ。一企業、一デザイナーのものとして考えるのではなく、富山の産業の発展につながっていくかを考えています。それがないと、ただものが売れて終わり。そこをしっかりときたらいいなと思っています。

桐山 ものを売るだけでなく、そこに情報をコミュニケーションしていくところがすばらしいと思います。私たちも応援します。



基調講演

ナガオカケンメイ

地域デザイン
富山らしさを再発見する！

デザイン活動家として、地域の「らしさ」を探求・運用するナガオカケンメイ氏。活動のテーマである「ロングライフデザイン」とは何なのか、新しくオープンする「D&DEPARTMENT」富山店を拠点に何をを目指すのか。町づくりの意義や役割を再認識する内容でした。

時間が品質を証明する
「ロングライフデザイン」

今、日本の売り場はおかしくなっていますよね。昔はメーカー希望価格という作り手が希望した意味のある価格がありましたが、今はオープンプライスの時代。流行や店の戦略に消費が左右されて、商品が短命に終わってしまう。そんな状況で、デザイナーはどうすべきかを考えた時、テーマを決めて活動していこうと思いました。それが「ロングライフデザイン」。長く残っているもの、時間が証明してくれたものがよいデザインだという仮説を立てたわけ。例えば、愛知県で生まれたカリモクの椅子は45年間愛されている。NTカッターも日本製で41年、セイコーの船舶時計も49年もの。工業製品は流行を追うデザインで勝負していないから、いつまでもたっても古くならない。これもロングライフデザインです。

世界で通用する日本のスタンダードデザインは1960年代に集中して生まれていますが、そんな普遍的な定番商品を扱う老舗メーカーとロングセラーマーケットを開拓する目的で「60VISION」を立ち上げました。このプロジェクトで、カリモクの椅子は売上が30倍以上に増えました。そして、その考え方を地場産業や工芸品に応用させたのが「NIPPON VISION」というプロジェクトです。日本の地場産業や工芸品をロングライフデザインととらえ、無理なくより長く続いていく仕組みを考えています。

また、ロングライフデザインの視点からトラベル誌もつくっています。編集方針は、自分たちが感動したところだけを取り上げる。私たちはプロのライターでも、カメラマンでもありません。感動したものを写真や文字に残したいという純粋な気持ちに基づき、新しい発想で観光の若返りを目指しています。

立体的な展示で、
富山を実感できる「D&DEPARTMENT」

ロングライフデザインは、消費の質とスピードを正当化するためのもの。それには売り場が必要ですので、販売拠点「D&DEPARTMENT」を47都道府県につくろうという活動をしています。現在、国内に8店、ソウルに1店、2014年に京都店、2015年に富山店ができます。「D&DEPARTMENT」には新しいものは売っていません。店を始める時、商品がなくて店

が潰れるようなら日本ってそういう国だよと割り切ろうと思いました。でも14年間も続いているので、日本も捨てたものじゃないです。

店では土地ならではのものを適正な価格で販売していますが、デザイン選定の時は「知る」「使う」「引き取る」「直す」「続く」という5つの基準を設けています。まず、「作り手とお客様を知る」というのが原則。作り手の思いを知って、お客様とも気心の知れた関係になるためには、売り場をちゃんと展開しなければいけない。そして「自分で使うことでよし悪しを判断したか」「数年後、引き取って再販できるか」「直して使い続けられるか」「メーカーに作り続ける気持ちがあるか」という5つの視点で商品を選

んでいます。展示方法はギャラリーで見たものをショップで買ったり、カフェで食べたりできる立体的なスタイルです。ワークショップや勉強会も開催します。

富山店は、以前、同ビルにあった昭和な感じの喫茶店のDNAを受け継いだD&Dカフェをつくりたい。県外から来た友人を連れてきて、お茶を飲みながら富山の良さをアピールできる場所にしたいですね。富山店が続いていくためには皆さんの力が必要です。ぜひ皆さんも店づくりに参加してください。



富山マテリアルワークショップ

テーマ

富山素材 プラス

全国で活躍するデザイナー8組が富山素材のガラス(吹きガラス)とメタル(鋳造)に、異素材を組み合わせて作品制作に挑みました。枠にとられない自由な感性で新たな息吹を吹き込み、富山素材の可能性が広がる作品が生まれます。

[期間] 2014年9月5日(金)～7日(日) [会場] 富山ガラス工房、高岡市デザイン・工芸センター



Glass ガラス造形

富山市に富山ガラス工房が設立されたのは1994年。以来、数多くのガラス作家がここから誕生し、またガラス(吹きガラス)そのもの素材としてしっかり富山に定着してきています。ワークショップでは4組のデザイナーが工房スタッフの力強いサポートを受けながら、作品制作に取り組みました。



Metal メタル造形

鋳物は、高岡銅器に代表される富山の地場産業として知られています。また近年は、伝統的な技術を生かしつつデザイン性に優れた新ブランドの立ち上げも話題となっています。今年のワークショップでは参加デザイナー 4組すべてが素材として真鍮をセレクト。「ものづくり」の原点に向き合いました。



アドバイザー講評 近藤 康夫 デザイナー/近藤康夫デザイン事務所

今年は、事前にデザイナーたちのデザインスケッチを拝見しました。製作に入る前に修正できることや考えてきてほしいこと、注意点などを、デザイナーの皆さんに伝えることができて良かったかと思います。

全体としては非常にコンセプチュアルな作品が多いというこ

と。決めごとを多くすると不満が残りがちなのですが、皆さん、自由にのびのびとやってくれて非常にバリエーション豊かな作品が出来上がりました。皆さんがワークショップでの経験をこの先にどうつなげるか、どんな展開ができるかという視点で見られた楽しい3日間でした。



ガラスと漆のディスプレイドーム

富山市のガラスと高岡市の漆器のそれぞれの特徴を生かし、互いの素材の良さを引き立て合うことのできるアイテムとして、アクセサリやエアープラント等、さまざまなものを飾るためのディスプレイドームを製作しました。



天野 芳美 Yoshimi Amano

1985年富山県生まれ。プロダクトデザイナー。2007年富山大学高岡短期大学部専攻科(現富山大学芸術文化学部)修了。大阪のデザイン事務所にて勤務後、13年高岡市にて「sora pool design」を設立。

【講評】非常に完成度の高い作品。漆とガラスが非常にうまくマッチングしており、中にアクセサリを展示する意外性に驚かされた。



吹きガラスのシャボン玉／蜃気楼の山／風感

吹きガラスのシャボン玉／吹きガラスはきれいに膨らむシャボン玉のよう。ガラスを吹くことでシャボン玉が四方に飛び出します。蜃気楼の山／透明から煙で白くなっていく。「煙」を、形に、景色にしました。風感／風が吹くことで中の羽毛がフワリッと動く。静かな風の空気感を感じます。



SOL style (伊東 裕、劍持 良美)

店舗デザイン、建築、プロダクト開発、会場デザインなどジャンルにとらわれず、さまざまな分野で精力的に活動。CEBUNEXT、BODW HongKong、IFFT 上海、TDWなど国内外多くの展示会に出展。

【講評】視覚面以外にもプラスαがあり印象に強く、見てだけで楽しくなる作品。透明度や色など、非常にストイックな制作の姿勢に感心した。



SENRIN (栓鈴・せんりん)

栓抜きの用途に呼び鈴といったプラスαを加えることより、モノとしての価値を上げます。実用的で理にかなった形状は鳴らすと愛嬌も生まれる。そんな意図でデザインしました。花火の千輪と同様に、響いて心に残るモノとして使えます。



浅野 雅晴 Masaharu Asano

「建築設計を軸に衣食住の新たな価値を創造し暮らしを豊かにしたい」とビジョンを掲げ商空間・住空間を設計する浅野藝術(株)代表取締役。2012年よりプロダクト事業部を設立。同年自社ブランド「eN」を展開しながら日本各地の伝統産業とさまざまな商品開発を行う。

【講評】音色が良く、発想も素晴らしい。製品化の際には、強度面で素材をもう一度練り直すとより良くなるのでは。



風香る(風鈴)／薫る佇まい(アロマフレグランス)

風香る／風鈴の短冊に植物を組み合わせることで、見た目にも美しい日用品となりました。好みのアロマオイルを垂らせば、風と共に爽やかな香りが吹き抜けます。薫る佇まい／花器のようなアロマフレグランス。内部にアロマオイルを注ぐことで、植物がオイルを吸い上げ、室内を心地よい薫りで満たしてくれます。



STUDIO SURUME (菊池 光義、増田 佑佳)

菊池光義/1988年、増田佑佳/1989年生まれ。2012年STUDIO SURUMEを設立。家具や家電、生活雑貨などのプロダクトを中心に幅広くデザインを手掛ける。Interior Lifestyle TOKYO2013にてYoung designer awardを最年少で受賞、翌14年にAmbiente(ドイツ)に招待出展。噛めば噛むほど味が出るデザインをモットーに東京都を拠点に活動中。

【講評】錆物らしさがあり、植物とのコラボが面白い。もう少し何かプラスがほしいが、製品化が一番近い作品。



Glass basket

ガラスと藤を組み合わせたバスケット。藤で編み上げたかごを型にしてガラスを中に直接吹き、テクスチャーを付けています。ガラスならではの中身の見えるバスケットは涼しげな印象を持ち、使う楽しみを増やします。



福嶋 賢二 Kenji Fukushima

1982年滋賀県生まれ。2005年大阪芸術大学デザイン学科卒業後、スウェーデンのHDK大学にてデザインを学ぶ。08年(株)IDKデザイン研究所に勤務。喜多俊之氏に師事。11年KENJIFUKUSHIMA DESIGNを設立。13年から大阪にあるインキュベーション・スペース「シゴトBASE」を活用する。

【講評】藤のカゴを燃やして作った模様の偶然性に驚いた。考え方は展開している。一方で作品としてはこれがオリジナルの完成のように思う。



宙

食べ物の影、食べるうちにそれはなくなっていく。器の影、すべてを平らげるとそれは見える。食べるということの重み、大切さを感じて欲しいという一つの想いから、制作・展開しました。



松山 美欧 Mio Matsuyama

1994年東京都生まれ。2012年女子美術大学入学。富山プロダクトデザインコンペティション2013準とやまデザイン賞受賞

【講評】吹きガラスらしい要素を残しながら、うまくまとめた作品。学生のうちのテーマを絞り込まず、枝葉を広げた取り組みを期待。



[+Felt]

鋳物の深い趣がフェルトの軽やかさに包まれることで、素材の持つイメージのコントラストにより鋳物の新たな魅力を引き出すことを検証しました。相反する素材感が合わさることで、共通項として見てくる「暖かい」という印象が、より親しみやすい新たな鋳物の可能性を造り出します。



中村 洋介 Yosuke Nakamura

2011年京都市立芸術大学デザイン科プロダクトデザイン専攻卒業。同年よりオーディオメーカーにてインハウスデザイナーとして勤務。現在に至る。受賞歴／富山プロダクトデザインコンペティション2013とやまデザイン賞

【講評】鋳込みが大変だったと思う。フェルトをコードまで巻くのは地道で困難な作業。真鍮とフェルトの組み合わせの良さが魅力。



雲脚サイドボード

ベンチとしても使えるサイドボード。真鍮製の雲脚を引き立たせるため、シンプルかつ機能的に作ってあります。その反面脚部は過剰装飾を施し、空間に余裕を与えてくれます。



林 康之 Yasuyuki Hayashi

1974年富山県生まれ。94年高岡木材工業(株)入社。2001年ハヤシ製作所入社。受賞歴／13年富山県デザイン展奨励賞。14年日本クラフト展日本クラフト大賞・経済産業大臣賞、フランス・パリ日本文化会館「原点と可能性展」出展、高岡クラフトコンペ奨励賞、富山県デザイン展クラフト部門賞。

【講評】家具とのマッチングが良く、錆物らしさを感じられる。玄関ベンチになる高さも機能的。家具としても細かい工夫が施され、存在感がある。

北陸新幹線がつなぐ地域の未来

太平洋側と日本海側を結ぶ北陸新幹線の開通で各方面でビジネスチャンスへの期待が高まっています。そんな中、デザインはどのような役割を果たすのでしょうか。企画展では「富山と北陸新幹線」をキーワードに、デザインの観点から新幹線の車輻や駅舎を紹介し、さらに、デザインのプロが選ぶ富山デザインの旅を提案しました。



01 富山と北陸新幹線

日本最大の消費地である東京から産業集積地である富山まで、新幹線の旅の所要時間はわずか2時間8分。富山県内では3つの駅を設置し、3つの列車名の新幹線が停車します。

02 車輻のデザイン

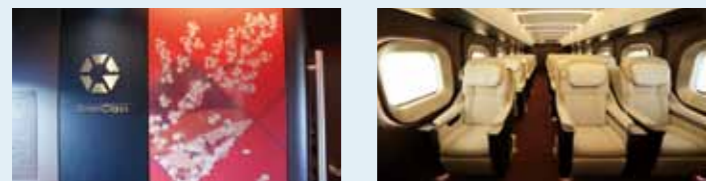
新幹線車輻のタイプはE7系・W7系。そのデザインコンセプトは「和の未来」で、日本の伝統と未来をつなぐことを意図しています。

エクステリア (外装) 北陸の青い空、磁器の白、銅文化を象徴する銅色。高速走行するための造形と日本の伝統的な色使いを用いて、走行する沿線の風景との融合を目指したエクステリアデザイン。空気力学的に最適とされる「ワンモーションライン」と呼ばれる先頭部分のシンブルな形状と、車体上部に「北陸の空色」を、車体に「磁器を思わせるアイボリーホワイト」を、車体中央の帯に「金属加工や象嵌細工などの銅文化を象徴する銅色」を配した塗装がデザインの特徴となっています。



インテリア (内装) さまざまな和のかたち

日本の伝統と最先端技術の融合によって生まれる『洗練さ』と、和風の空間で得られるくつろぎから「ゆとり、開放感」を表現し、居心地のよいゆとりのある空間を実現しています。



最上級クラス車 (グランクラス) 伝統を感じさせる空間と最先端機能が融合されたデザインが特徴。白、茶系統のカラーリングで落ち着きと高級感を感じさせます。

グリーン車 (様式美の和)

伝統的な意匠とモダンな感覚でデザインされています。カラーリングは青系統をメインにした美しい印象です。

普通車 (彩りの和)

普通車は、シックで大人の雰囲気をも併せ持つデザインです。赤系統をメインにしたカラーリングで明るい印象があります。

デザイン監修 KEN OKUYAMA DESIGN (代表 奥山清行)

工業デザイナー。1959年山形市生まれ。セネラルモーターズ社(米)チーフデザイナー、ボルシェ社(独)シニアデザイナー、ピニンファリーナ社(伊)デザインディレクター、アートセンターカレッジオブデザイン(米)工業デザイン学部長を歴任。フェラーリ エンツォ、マセラティアクトロボルトなどの自動車やドゥカティなどのオートバイ、鉄道、船舶、ロボット、テーマパーク等多くのデザインを手掛ける。2007年よりKEN OKUYAMA DESIGN代表として、山形・東京・ロサンゼルスを拠点に、企業コンサルティング業務のほか、自身のブランドで自動車・インテリアプロダクト・眼鏡の開発から販売までを行う。2013年4月ヤンマーホールディングス(株)取締役就任。ヤンマーコンセプトトラックター、秋田新幹線、北陸新幹線、SL銀河、山形新幹線と次々に手掛けている。



03 駅舎のデザイン

3つの駅舎は伝統と自然を融合し、新しい景観と未来を生み出すデザインが考えられました。

黒部宇奈月温泉駅

【コンセプト】見えない駅・魅せる駅

ホーム階からは、立山連峰と日本海の風景をパノラマ的に一望することができます。



富山駅

【コンセプト】立山あおぎ、心ときめく、光の舞台

ガラススクリーン越しに見えるホームの独創的な柱を雪の立山杉の木立に見立てることでドラマティックな駅の景観を創出しています。



新高岡駅

【コンセプト】飛越能の自然・伝統・技術が融合し、新たな時代を具現化するデザイン

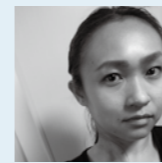
歴史に育まれた瑞龍寺の回廊や縦格子などをデザインモチーフにした、リズムカルな縦のラインを強調したデザインです。



04 富山デザイントリップ

東京と富山に在住するデザイン関係者7名が厳選した富山デザインを紹介。デザインが優れている「建築」「ホテル・ショップ・レストラン」「お土産(プロダクト)」「お土産(たべもの)」から富山のデザインリソースを生かした観光の在り方を提案しました。

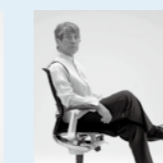
7人のデザインのプロ



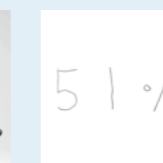
石崎悠子
グラフィック
デザイナー



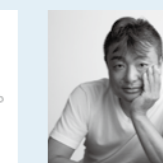
磯野梨影
プロダクト
デザイナー



川上元美
デザイナー



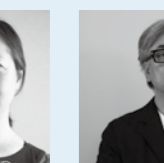
五割一分
建築士・家具店・
グラフィックデザイン



寺田尚樹
建築家・デザイナー



能作幾代
チーフ・バー・nousaku
店主/能作建築設計事務所主宰

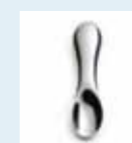


桐山登士樹
富山県
総合デザインセンター
デザインディレクター

お土産編

「15.0%」 アイスクリームスプーン

デザイン:寺田尚樹
メーカー:タカタレムノス(高岡市)
推薦人:川上元美、寺田尚樹



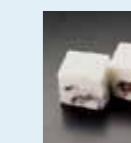
桂樹舎の「和紙袋」

メーカー:桂樹舎(富山市八尾)



「鹿の子餅」

メーカー:不破福寿堂(高岡市)
推薦人:寺田尚樹



「RIKI CLOCK」

デザイン:渡辺力
メーカー:タカタレムノス(高岡市)
推薦人:五割一分



松井機業の 「iPad・スマートフォン クリーナー」

メーカー:松井機業(南砺市)
推薦人:石崎悠子



「洋風落雁KANAYA」

メーカー:中尾清月堂(高岡市)
推薦人:磯野梨影



「りんごりん(久乗おりん)」

デザイン:磯野梨影
メーカー:山口久乗(高岡市)
推薦人:磯野梨影



FIVEの「ブックカバー」

デザイン:minna
メーカー:FIVE GOKAYAMA
推薦人:磯野梨影



「ひしきりこ」

メーカー:林盛堂(富山市八尾町)



「コリネット」 (アルミニウムのツボ押し)

デザイン:松山祥樹
メーカー:ナガエ(高岡市)
推薦人:能作幾代



「つりやの保存食」

メーカー:つりや(氷見市)
推薦人:能作幾代、五割一分



「まつ川の鱒の寿し」

メーカー:鱒の寿しまつ川
推薦人:石崎悠子



RED&WHITEの 「FLOWER VASE」

デザイン:鈴木啓太
メーカー:織田幸銅器(高岡市)
推薦人:石崎悠子



「薄氷」

メーカー:薄氷本舗五郎丸屋
(小矢部市)



「ラ・カブラ」、 「リコッタ ラ・カブラ」、 「カブリーノ」3種のヤギチーズ

メーカー:吉田興産Y&Co.(黒部市)
推薦人:川上元美



「KAGO」シリーズ

デザイン:小野里奈
メーカー:能作(高岡市)
推薦人:川上元美



「平家漬 畑のベーコン」

メーカー:平家とうふ
ねこのくら工房(南砺市)



「パイ貝ギッシリ 炊き込み弁当」

メーカー:黒部フーズサプライ
推薦人:桐山登士樹



能作の「風鈴」

メーカー:能作(高岡市)



「ラム酒に漬けた 干柿アイス」

メーカー:薪の音
(オーベルジュ、南砺市)
推薦人:桐山登士樹



「Grace Piece (グレイスピース)の紅茶」

発売元:Grace Piece
(黒部市宇奈月温泉)
推薦人:石崎悠子



「そろり」

メーカー:能作(高岡市)
発売元:KANAYA(高岡市)
推薦人:桐山登士樹



「越中富山幸のこわけ」

パッケージデザイン:中山真由美
発売元:富山県いきいき物産(富山市)
推薦人:川上元美、桐山登士樹



建築編



① SAYS FARM

デザイン:五割一分 所在地:氷見市余川 推薦人:桐山登士樹
富山湾が眼下に広がる氷見の丘陵地にあるワイナリー。ワインの熟成と同様に、このロケーションもより日に日に魅力を増すだろう。



② ミュゼふくおかカメラ館

デザイン:安藤忠雄 所在地:高岡市福岡町 推薦人:石崎悠子
4分の1の円筒形の外観が面白い美しい建築。無機質な空間に映る光と影のコントラストが気持ちが良い。



③ 新湊大橋

所在地:射水市、富山湾 推薦人:能作幾代
ジェットコースターを昇るように橋の頂上に辿り着くと立山連峰と富山湾が現れ、一瞬にして富山を感じられる。



⑤ 桂樹舎和紙文庫



⑪ 「風の塔」

デザイン:ロン・ヘロン 所在地:黒部市総合公園

④ 「錦町バス待合所」

デザイン:ロン・ヘロン 所在地:射水市

④ 「小杉駅南口キャノピー」

デザイン:ロン・ヘロン 所在地:射水市 (JR小杉駅) 推薦人:寺田尚樹

富山で実際に建てられた「アンビルドアーキテクト」。夢から覚めきっていない感じのデザインが好き。



⑥ 富山県水墨美術館

所在地:富山市五福 推薦人:桐山登士樹
広々と庭を見ながらのアプローチ、ゆったりとした時間に身を委ねて瞑想に耽る事の出来る空間。



⑦ 富山国際会議場

デザイン:横文彦 所在地:富山市大手町 推薦人:五割一分
硝子のカーテンウォール、木製の格子スクリーンから見る富山城が本当に美しい。



⑧ コンパクトシティ化を
目指して再開された
交通システムLRT「ポートラム」

デザイン:GK設計 所在地:富山市 推薦人:川上元美
素晴らしい。GK設計による車体のデザインが秀逸で、市民参加によるさまざまな環境作りが見るべきものがある。



⑨ 福沢地区コミュニティセンター

デザイン:建築研究所アーキヴィジョン 所在地:富山市東福沢 推薦人:桐山登士樹
豊かな自然を背景に居心地のよいたたずまい。地域の人と深く結びついている在り方が素晴らしい。



⑩ 魚津埋没林博物館

デザイン:西野建築研究所 ZENPLAN 所在地:魚津市釈迦堂



⑪ YKK の企業姿勢を
反映した一連の施設

所在地:黒部市 推薦人:川上元美
横文彦設計の前沢ガーデンハウスと付帯する桜花園。H・ヘルツベルハー設計のYKK黒部寮に感銘を受ける。



⑫ 入善町 下山芸術の森
発電所美術館

所在地:下新川郡入善町下山 推薦人:石崎悠子
解体される予定だった古い水力発電所を美術館として再生。残された発電所の設備そのものが美術作品のようだ。



ホテル・ショップ・レストラン編



① AUBERGE「薪の音」

所在地:南砺市野口 推薦人:石崎悠子
さりげなくも行き届いたサービスが嬉しい。懐かしいふるさとに帰って来たような、静かな里山のオーベルジュ。



② SHOP「ホビーショップフランケン」

所在地:高岡市定塚町 推薦人:寺田尚樹
高岡唯一の模型専門店。デザインのアイデアの宝庫。狭い店だが無限の拡がりを感じる。



写真提供:高岡ケーブルネットワーク(株)

④ RESTAURANT & GALLERY
「そば蕎麦+ART WORK STUDIO・AN」

所在地:高岡市下島町 推薦人:川上元美、能作幾代
濱田修設計のもとオーナー夫婦がセルフビルドで立ち上げた。空間・室礼・器・味覚にこだわりが感じられる。



写真提供協力:
(株)織田幸銅器、CARGO、(有)桂樹舎、SAYS FARM、そば蕎麦+ART WORK STUDIO・AN、高岡ケーブルネットワーク(株)、つりや、富山国際会議場、ねこのくら工房、(株)PCO、薪の音、鱒の寿しまつ川、minna、ミュゼふくおかカメラ館、吉田興産Y&co.、YKK(株)、リバーリトリート倶楽部、富山県、富山市、黒部市、魚津市観光協会、入善町観光物産協会、富山県水墨美術館

③ 夢のHOTEL
「高岡クラフトホテル」
(構想段階)

所在地:高岡市 推薦人:桐山登士樹
22年間富山に通い夢見ている、世界でただ一つ富山県の技の粋を集めたデザインホテル。いつの日か実現したい。



⑤ CAFE「桂樹舎和紙文庫・
喫茶パピルス」

所在地:富山市八尾



⑥ HOTEL「リバーリトリート倶楽部」

デザイン:内藤廣建築設計事務所 所在地:富山市春日 推薦人:川上元美
プレキャストや現場打ちコンクリートを巧みに使って和の陰影を繊細に醸し出す美術館のような佇まいのホテル。



⑦ SHOP
「MaTiLDe マチルダ」

所在地:富山市千石町 推薦人:五割一分
セレクトショップ。HPにはGood Clothes will enrich life(人生を豊かに)といった言葉が目飛び込む。



⑧ SHOP「CARGO」

所在地:富山市山室 推薦人:磯野梨影
江戸時代に栄えた北前船回船問屋で国指定重要文化財の森家の土蔵群の中の一つを生かしたフレンチレストラン。
大治将典さんがFUTAGAMIの新作を発表されたときに訪れた。独自のセレクト眼が魅力の店。



⑨ SHOP「林ショップ」

所在地:富山市総曲輪



⑩ RESTAURANT
「Cave Yunoki カーヴ・ユノキ」

所在地:富山市東岩瀬 推薦人:石崎悠子
江戸時代に栄えた北前船回船問屋で国指定重要文化財の森家の土蔵群の中の一つを生かしたフレンチレストラン。



exhibition

デザインウイーク

富山デザインウエーブ2014に合わせて、デザイン・クラフト関連のイベントが富山市・高岡市を中心に開催。時代をリードするデザインと、伝統に根ざしつつ新しいうねりを見せるクラフトに触れるため、県内外から多くのデザイン・クラフトファンが集まりました。

富山デザインウエーブ2014展

[期間] 2014年10月2日(木)～6日(月) [会場] 富山国際会議場 [主催] デザインウエーブ開催委員会

富山デザインウエーブ2014事業のなかで制作された作品を、3つの展覧会で紹介します。また、2015年春の北陸新幹線開業を受け、デザインの観点から車輛や駅舎を分析し、さらに富山のデザイントリップを提案する企画展を開催。富山のプロダクトデザインを取り巻く、最新の動向を伝えました。

富山プロダクトデザイン コンペティション2014作品展

21回目を迎える「富山プロダクトデザインコンペティション2014」、今年のテーマは「新幹線と旅」(→詳細P4～12)。旅に役立つさまざまなアイテムが、新しい発想と考え抜いたデザインで提案されました。第1次審査を通過した作品11点を展示。



富山マテリアル ワークショップ作品展

8組のデザイナーが富山素材(ガラスとメタル)を使った作品制作に取り組む富山マテリアルワークショップ(→詳細P18)。異素材の組み合わせで富山素材の新たな可能性を探った作品の数々を展示しました。



富山プロダクツ2014展

富山県内で企画または製造される、性能・品質・デザイン性に優れた工業製品を選定する「富山プロダクツ」。2014年9月に審査会が行われ、26社52点の申請の中から15社21点の作品を選定し、展示しました。



富山デザインフェア2014 (第18回)

[期間] 2014年10月3日(金)～5日(日)
[会場] 富山市民プラザ2F、デザインサロン富山
[主催] 富山デザインフェア実行委員会、富山市

新聞広告やポスター、パッケージデザイン、ディスプレイなど県内外の商業デザイン作品955点を展示。富山市民プラザをメイン会場に10展示会で構成され、日本トップクラスのデザイナー作品から学生対象のパッケージデザインコンペ出品作品まで、多彩な作品を紹介しました。



工芸都市高岡2014 クラフト展 (第28回)

[期間] 2014年10月2日(木)～6日(月)
[会場] 大和高岡店4F
[主催] 工芸都市高岡クラフトコンペ実行委員会

「新しいクラフトをもとめて」をテーマとした今年の「工芸都市高岡クラフトコンペティション」応募作品1089点の中から入賞・入選作品445点を展示。金工・漆器・陶器・ガラス・木工・ジュエリーなど、全国のクラフト作品を紹介しました。



第54回富山県デザイン展

[期間] 2014年10月4日(土)～5日(日)
[会場] 富山国際会議場2F
[主催] (公社) 富山県デザイン協会

建築・環境、インテリア・ディスプレイ、グラフィック、工業デザイン、クラフト・ファッション、デジタルコンテンツなど多種多様なジャンルを網羅する県内の草分け的な公募展。一般92作品、学生80作品(応募は223作品)、北陸三県の学生を対象としたオリジナル建築15作品の計187作品358点が展示されました。

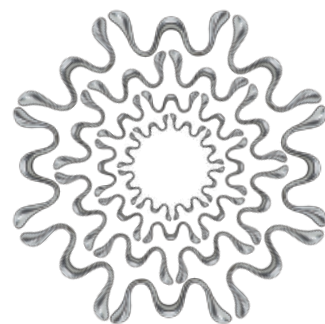
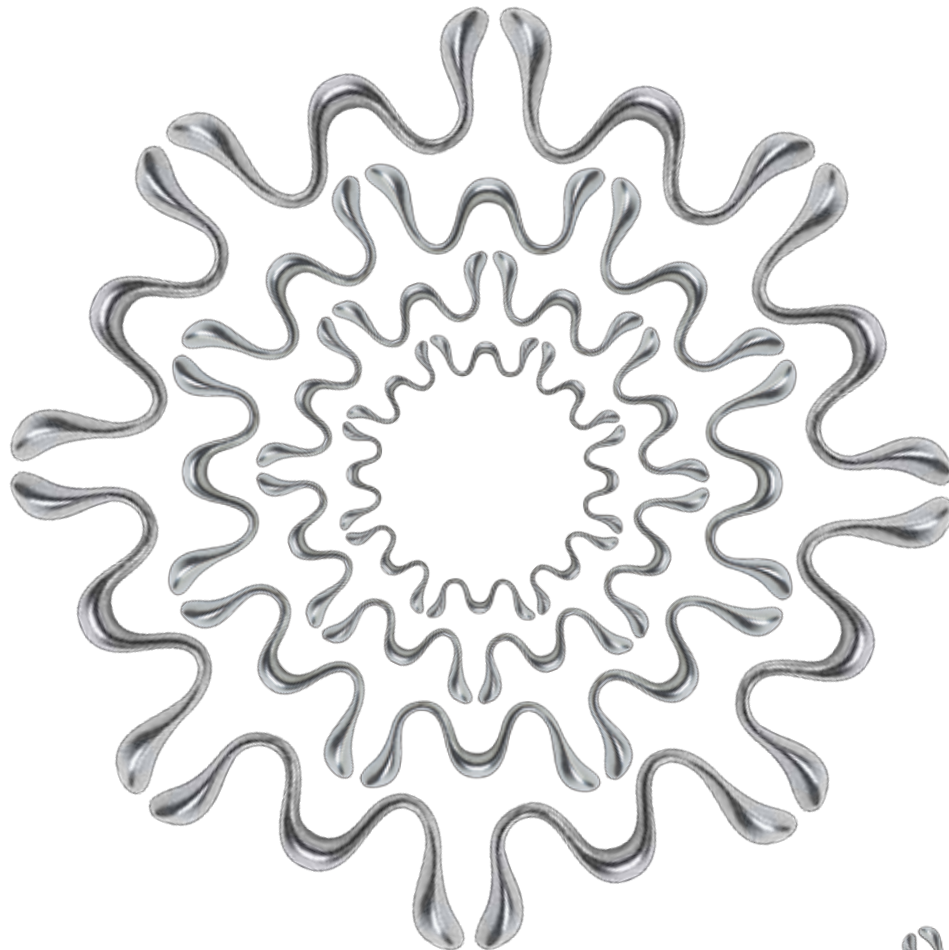
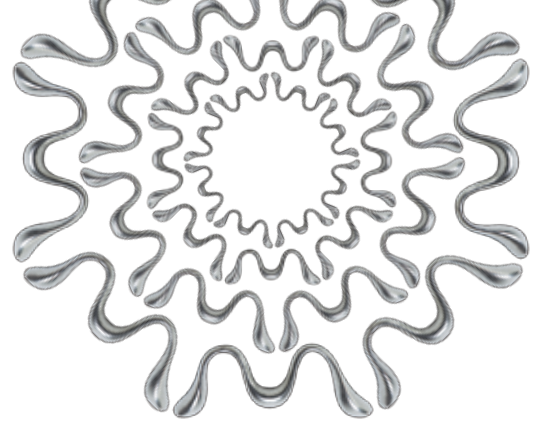


高岡クラフト市場街 ～いちばまち～2014 (第3回)

[期間] 2014年10月2日(木)～6日(月)
[会場] 高岡市中心市街地
[主催] 高岡クラフト市場街実行委員会

高岡市が誇る質の高いクラフト作品を町並みや食とともに楽しんでらおうと開催。今年で3回目。町歩きワークショップや職人の工房を見学するツアー、クラフト作家の器で飲食を楽しむ「クラフトの台所」など、35会場で展示や販売、体験が行われました。





 富山で生まれる、次のデザイン。
toyama design wave

発行日 2015年2月28日発行
編集・発行 デザインウェブ開催委員会
事務局 富山県総合デザインセンター
〒939-1119 富山県高岡市オフィスパーク5番地
TEL.0766-62-0510 FAX.0766-63-6830
ホームページ <http://dw.toyamadesign.jp/>
主催 デザインウェブ開催委員会
共催 (株) 富山県産業高度化センター
(一財) 富山県産業創造センター、(公社) 富山県デザイン協会
後援 経済産業省中部経済産業局、(公財) 日本デザイン振興会、
(公社) 日本インダストリアルデザイナー協会、
(公財) 富山県新世紀産業機構、
(独法) 日本貿易振興機構富山貿易情報センター、
北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞北陸支社、
中日新聞富山支局、日本経済新聞社富山支局、日刊工業新聞社、
朝日新聞富山総局、毎日新聞富山支局、NHK富山放送局、
北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、富山エフエム放送、
(一社) 富山県アルミ産業協会、富山県プラスチック工業会、
富山・ミラノデザイン交流倶楽部、高岡商工会議所
監修 大矢寿雄
編集・構成 仁木久司/柳瀬経夫/窪英明/堂本拓哉/吉田絵美/
平野尊治/玄千賀子
デザインディレクター 桐山登士樹
デザイン Design room Grow 小山明裕
撮影 江田健一
制作・印刷 能登印刷(株)